

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	--

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

埼玉県川越市

○学校名

川越市立寺尾小学校

○学校のURL

<http://www.city.kawagoe.saitama.jp/www/genre/00000000000000/1121932263023/index.html>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】 13 学級 【特別支援学級】 なし 【合計】 13 学級

○児童生徒数

【全校児童数】 416 人（平成 24 年 9 月 1 日現在）
（内訳： 1 年生 60 人、 2 年生 82 人、 3 年生 74 人、 4 年生 64 人、
5 年生 70 人、 6 年生 66 人）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

- 自ら進んで学ぶ子 （知）
- 自ら進んで仲よくする子 （徳）
- 自ら進んできたえる子 （体）

【人権教育に関する目標】

◎人権についての正しい理解を深め、様々な人権問題を解決しようとする児童を育成する。

○人権教育にかかる取組の全体概要

研究主題を「お互いを尊重し合い、共に高め合うことができる児童の育成」
副題を「～人とのかかわりを大切にした人権教育の推進～」と設定して研究に取り組んだ。

また、望ましい児童像を明確化し、その育成のための仮説を次のように設定した。

① 「相手の考えや思いを聞き、自分の考えや思いを伝えられる子」

仮説 話合いを取り入れた授業を展開すれば、自分の考えや思いを伝え深めることができるであろう。 キーワード「伝え合う授業」

② 「自他の考えのよさや違いを認めることができる子」

仮説 生き生きと活動する取組を工夫すれば、自他の考えのよさや違いを認め

ることができるであろう。キーワード「認め合う活動」

③ 「自他の立場を大切にしながら行動できる子」

仮説 体験活動や人や本、自然等との交流を深める取組を工夫すれば、自他の立場を大切にしながら行動できるであろう。キーワード「ふれ合う体験」

3. 特色ある実践事例の内容

人とかかわりを大切にしながら一貫した人権教育を推進する

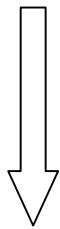
(1) 取組のねらい

- ① 相手の考えや思いを聞き、自分の考えや思いを伝えられる子の育成
- ② 自他の考えのよさや違いを認めることができる子の育成
- ③ 自他の立場を大切にしながら行動できる子の育成

(2) 取組を始めたきっかけ

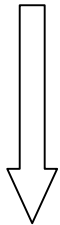
本校の今までの教育活動の成果と課題を踏まえて、次のような経過で取組を始めた。

これまでの課題



- 自分の考えを持ち、人とかかわり合いながら伝える力が不足している。
- 各種学力調査の結果から、学力が十分に身に付いていない。
- 学習規律や生活面でも課題を抱える児童がいる。

国語科の学校研究

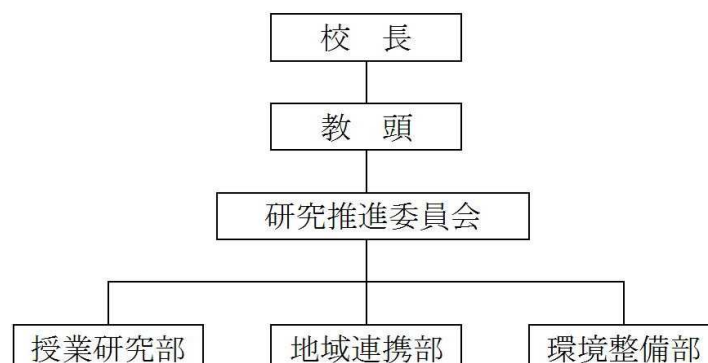


- ＜平成21年度＞
「話し合いの力を育てるための指導法の工夫」
- ＜平成22年度＞
「伝え合う力を育てるための指導法の工夫」

新たな教育課題

- 自尊感情の育成が必要である。
- 他者の立場や思いを理解しての行動が十分ではない。

(3) 取組の組織



(4) 取組の内容

＜授業研究部の取組＞

- 研究主題にせまるために、「授業における 3 つの留意事項」と仮説を検証するための具体的な手立てを設定した。

「授業における 3 つの留意事項」

- ・ 人権教育上のねらい
- ・ 人権教育上の視点
- ・ 人権教育上の配慮

仮説と手立て

仮説 1 「伝え合う授業」

- 手立て
- ア 発達段階に応じた話合いの形式を全校で統一する。
 - イ 聞き方、話し方の指導を全教科の中で行う。
 - ウ 自分の思いや考えを安心して発表できる場の設定や支援を工夫する。
 - エ 友達の意見と自分の意見とを比較しながら聞き、立場の違いやその意見のよさに気付けるよう支援する。
 - オ 上手に意見を伝えられた児童を称賛し、また、お互いに称賛するよう指導する。
 - カ 自信をもって発表できる機会を設定する。

仮説 2 「認め合う活動」

- 手立て
- ア 多様な集団決定の経験を積み重ねる。
 - イ 友達の考えをとらえるための工夫を取り入れる。
 - ウ 友達のよい所を認め、伝え合う場を設定する。
 - エ 補助発問を活用し、多様な考え方に触れさせることにより、互いの意見のよい所に気付くことができるようにする。
 - オ 子どもにとって身近な資料を選定する。
 - カ 子どもにとって魅力的な活動を設定する。
 - キ 一人一人を認める機会を設定する。



＜多様な集団決定の経験＞

＜心を豊かにする読書活動＞

仮説 3 「ふれ合う体験」

- 手立て
- ア 話合い活動で集団決定したことをみんなで協力して実行する。

- イ 活動を振り返り、良かったことを認める時間を持つことにより、実践意欲を高める。
- ウ 自己決定した内容を実践し、後日振り返り、修正しながら継続できるようにする。
- エ 心を豊かにする読書指導を、全校で一貫して推進する。
- オ 人的、物的な面から、読書環境を整える。
- カ 身近な人との交流を通して、実践意欲を高める。
- キ 多様な体験活動を積極的に推進する。

＜地域連携部の取組＞

- 地域の教育力を一層推進するために、地域との連携の強化を図った。

- ・「おらが寺尾の応援団」一覧表の作成

学校に協力してくださる地域の方々や保護者について、単元や行事に対応させた一覧表を学年ごとに作成した。また、応援団の活躍の様子を紹介するコーナーを設け、校内に掲示した。

＜環境整備部の取組＞

- 人権意識の高揚に向けた環境づくりに向け、各種調査やアンケートの実施と分析を行った。

- ・人権コーナーの設置や人権標語の掲示、友達のよい所の紹介



＜人権コーナー＞



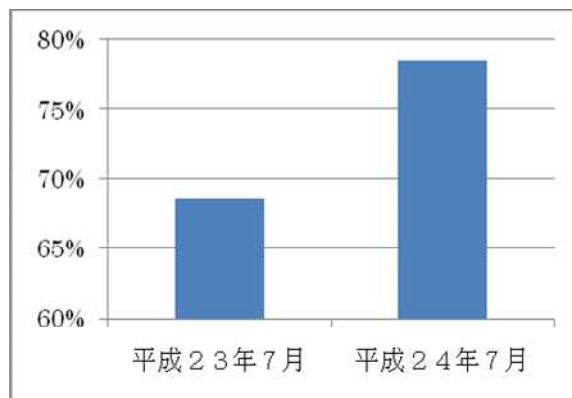
＜友達のよい所＞

4. 実践事例の実績、実施による効果

(1) 取組が効果を上げた実際の事例

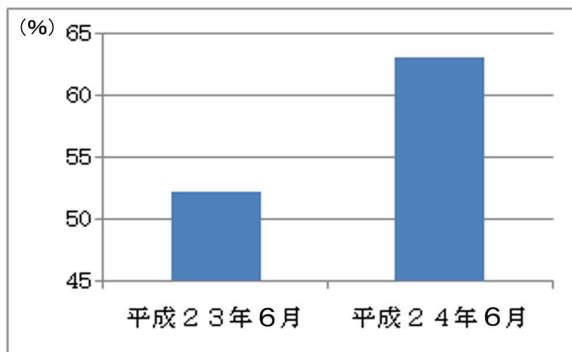
○各種調査アンケートの分析から、実績があったと考えられる事項

- ・「学校生活が楽しい」と答えた児童のうち、「友達と遊ぶことが楽しい」と答えた児童の割合



校内で作成・実施している「学校生活を楽しむためのアンケート」の結果から、平成23年7月の1～5年生と平成24年2～6年生の変容を分析した。友達と共に学校生活を送ることが楽しいと感じている児童が増えてきたことが分かった。

- ・「クラスの人とは声をかけたり親切にしたりしてくれますか」という質問で「あてはまる」と答えた児童の割合



毎年1学期に実施している「学級集団の傾向を把握するためのアンケート」の結果から、平成23年度5年生と平成24年度6年生の変容を分析した。肯定的な回答を示す児童の割合が10.8ポイント増加し、友達との関わりに良い面での変容が見られた。

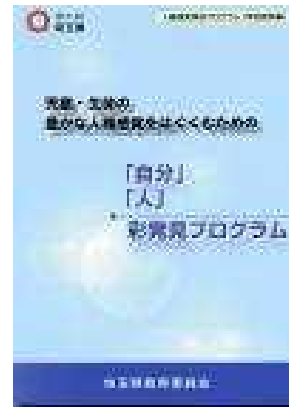
(2) 取組が効果を上げた実際の事例

人とのかかわりを大切にすることを核として、「話し合い活動の充実」「認め合う場の設定」「読書活動の推進」等の8つの視点を設け、校内で一貫した人権教育を推進した。学校全体が同じ歩調で取り組むことで、児童一人一人の豊かな心の育成が効果的に図られ、人権意識の高揚に結び付いた。

(3) 取組の実施から得られた知見・経験により改善を図った事項

埼玉県教育委員会が平成20年3月に『児童・生徒の豊かな人権感覚をはぐくむための「自分」「人」彩発見プログラム』として刊行した「人権感覚育成プ

プログラム（学校教育編）」をこれまで以上に活用した。参加体験型の活動を組み入れた人権教育の学習プログラムとして、「自己尊重の感情」「生命尊重」「コミュニケーション能力」等、児童生徒の人権感覚育成のための9つの視点を設け、各教科等の中で計画的、系統的に学習できるように開発されたものであるが、今回の取組では、このプログラムを積極的に活用することで、児童の人権感覚の育成に大変効果的であることが分かった。



＜実践の様子＞

※人権感覚育成プログラム

<http://www.pref.saitama.lg.jp/site/keihatusiryou/>

5. 実践事例についての評価

- (1) 取組についての評価及びそう評価する理由
 - 一人一人の児童のよい点に着目し、お互いを認め合う場面を多く設定することにより、望ましい人間関係が築けるようになった。
 - 話し合い活動を取り入れた授業を展開することにより、相手の意見をしっかり聞いた上で、自分の考えを相手に伝える態度が身に付いてきた。
 - 全教育活動を人権教育の視点から見直すことにより、全ての教職員が人権教育の重要性を一層強く認識し、進んで実践しようという意識を高め、児童への指導につなげることができた。
- (2) 保護者や地域住民からの反応
 - 保護者から、自尊感情を高めるため、我が子を認めること、褒めることの重要性を認識した声が多く聞かれるようになった。
 - 自治会を中心に、本地区の「人権宣言」を策定しようという声が上がりにつつある。
- (3) 現在、実施にあたって課題と感じていること
 - 人権意識を高めるために、児童が学んだことを実践する場を意図的に設定することが必要である。
 - 家庭や地域の方に幅広く情報を提供し、より多くの方が参加して関わりを持てる行事等を実施することで、地域全体の人権意識の高揚を図っていくことが必要である。
 - 研究成果を踏まえ、「手立ての精選」「評価の確立」等、一層効果的な指導の在り方について検討することが必要である。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

川越市立寺尾小学校

学校教育の中核をなす授業の充実到人権教育推進の具現化を求めている。子ども個々の生活実態に目を向けて、子どもたちに人とのかかわり合いを身に付けさせたい、学力の向上を図りたい、生活規律を正したい、などの視点を学校全体として明確にしている。

日々の授業において、「伝え合う授業」「認め合う活動」「ふれ合う体験」の 3 つをキーワードとし、子ども個々の学びの力量形成を図っている。とくに、国語の授業による相手の意見を聞く・伝えることの指導、道徳や学校行事等の場面での相互の認め合い、家庭や地域を巻き込んだふれ合いの体験などが、子どもの学びの事実を通して実践的に描き出されている。授業を行うまでの＜手立て＞の充実に研究の中心を置き、子どもの学習理解の把握や教員個々の授業展開の創意工夫などが具体化されている。これらの基盤として、推進組織としての地域連携部と環境整備部の取組がうまくマッチングしている。